

第 23 回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議要旨

日時 平成 27 年 7 月 28 日（火）14：00～15：30

場所 鎌倉市役所本庁舎 2 階 201 会議室

出席者：古谷委員長、中根副委員長、鷺尾委員、藤川委員、久本委員

事務局：小澤担当課長、山戸課長補佐、齋藤職員

傍聴者：なし

オブザーバー：高橋課長（観光協会）

議事の概要 1 開会

2 審議事項

(1) 平成 26 年度実績概要について

(2) 進行管理状況評価報告書〔平成 27 年度版〕について

3 その他

4 閉会

1 開会

2 審議事項

(1) 平成 26 年度実績概要について

事務局から平成 26 年度実績概要について説明を行った。

(委員) 全体の総括を行うことが今後の委員のためには重要であり、皆の議論で変えていったことと社会情勢によって変わったことの整理が必要である。また、4 ページからの部分で、現在の状況について記述があるが、この状況をどう捉えているかまで踏み込んで考えてほしい。

(委員) 大筋で構わないので、10 年間の振り返りはあった方がよい。また、実績概要の部分では、民間団体の取組みを挙げているが、参加人数などの数値を出来るだけ表記した方がよい。修復観光ツーリズムについては、今の時代にあった良い考え方であり、古民家などを大切に活用した観光を目指しているということは、広めて継続して行ってほしい。

(委員) 前年度の実績概要であるため、海街ダイアリーなどタイムリーな情報が掲載されておらず、もったいない感じがする。実績評価をもっと早めてほしいところではあるが、難しいところだと思うので、せめて今年度の上半期のダイジェストを掲載してはどうか。また、修復観光ツーリズムについては、体験型観光として新しい取組みであり、良い動きだと思うので、用語の解説を加えてもらいたい。さらに、今後の課題として、月ごとに何が行われたかの動きが分かるまとめ方も工夫して取り入れてもらいたい。

(委員) アクションプランなどを見ると、市として積極的に取組んでいて非常に良い。観光商品の造成及び販売については、大手民間会社や NPO 団体を活用していくと良い。

(委員長) 計画の策定当初は、鎌倉の中での観光施策の役割分担を考えるということが意識されていたが、最近はその考え方で記載がなくなっている。また、見せ方としても、新しい取組みやキーワードについては、写真などを挿入し、分かりやすくレイアウトされていたので、この部分も含め、以前のものを確認してほしい。なお、実績概要の統計で記載されている年次にバラつきがあるので、計画年次である平成 17 年度以前の統計は、整理をしても良い。

(委員) この委員会の評価が新しい計画を策定するにあたり必要だと思うが、それが新しい委員会に引き継がれていないことは問題である。

(委員) 提案だが、新しい計画を策定する委員会のメンバーとこの委員会のメンバーが、課題などの引き継ぎを行う場を設けたらどうか。

(事務局) 当委員会の 3 回目の会議を新しい計画を策定する委員会との合同開催として考えている。

(委員) 策定もどんどん進むため、堅苦しくなくて構わないので早くやりたいところである。

(事務局) ご意見として頂戴し、こちらで検討する。

(委員長) 合同開催については、事務局の意向に任せる。先程の年次の整理はどうか。

(事務局) 推移を掴むには、特段の理由がない限り、計画年次からの統計で十分であると思うので、そのように整理したい。

(委員長) その点の整理も事務局に任せる。他に特段なければ、これ以降のご意見については期限を区切り、それまでに事務局へ連絡すること。

(事務局) 次回の会議を 8 月 19 日に予定しているので、ご意見のある場合は、8 月 7 日までをお願いしたい。

(2) 進行管理状況評価報告書〔平成 27 年度版〕について

事務局から進行管理状況評価報告書〔平成 27 年度版〕について説明を行った。

(委員長) 推進体制のところに掲載されている有識者懇談会というのは、開催実績があるのか。

(事務局) 過去に一度、花火大会の開催方法について協議するために開催した経過がある。

(委員) 前文の部分はもっと胸を張って記述して良い。鎌倉にとっての観光はなにかを考え、鎌倉ならではの観光の質を高める時である。また、インバウンドの理念をどう持っているかを考えれば、どの国のどういう観光客に楽しんでもらうかが見えてくるはずである。観光の質については、観光客がマナーを守るよう、鎌倉イズムのようなものを掲げ、美しく歴史的な街並みを維持するような高い理念を持ってほしい。そして、この高い理念は、次期計画にも引き継いでいってほしい。なお、細かい部分で、60 ページ以降の書きぶりとして、「良い取組みです」という記述は、さらに踏み込んで「さらにこうあって欲しい」などの言及があると良い。

(委員) 64 ページの訪日観光客の満足度向上の部分で、県との連携が記述されているが、むしろ鎌倉は国や海外と連携し、国の中で果たす鎌倉の役割を押さえていくべきである。また、先程も話が出たが、それぞれの役割を提言していくということが薄れてきているので、役割分担については、「こうあるべきだ」と提言していくべきである。

(委員) 59 ページで昨年との比較を記述しているが、1 年間の増減に捉われず、大きな流れとして考えた方が良い。また、アクションプランの個別評価の部分で、「良い取組みです」という記述が多いが、記載されている時点で良い取組みであるので、わざわざ記述する必要はなく、例えば「鎌倉市

観光協会が修復観光ツーリズムシンポジウムを実施したことは、鎌倉らしい観光を新たに考える機会となりました。」のように、事実を淡々と語れば良い。市民の満足度については、大きな指標となるので、変わるものを探した方が良い。

(委員) 市民の満足度の指標がなくなったことについては、理由を教えてください。

(事務局) これまでは経営企画課で実施する年一回の市民意識調査を基にしていたが、調査事項の見直しにより、市の各事業における予算の使われ方、費用対効果がどうかを調査した方が、市の取組みに対する市民の考えを汲み取れるだろうということとなり、指標としていた項目がなくなりました。別の調査を実施することも考えたが、経年の比較が出来ないため、今年度はこの指標が取れないことを正直に認めた上で、来年度から始まる次期観光基本計画に向けては、新たな指標を考えていかなければならない。

(委員) この指標が得られなくなったことは、行政の後退であると思うし、委員会としてもそれをはっきり明記した方が良い。

(委員長) 今の意見に同感である。この時代、エビデンスに基づいて施策を評価するのは当然のことであり、このような調査をやめるということは、鎌倉市としての行政の後退である。委員会でもそのような意見が出ているというのは、しっかりと市長に報告する必要がある。

(委員) 加えて、これに代わるものでも構わないが、市民の観光に対する意識の調査を復活すべきというのは、明記しておいたほうが良い。

(事務局) ご指摘の点については、評価報告書に記述する。また、いただいたご意見を踏まえ、次期観光基本計画に向けた課題としたい。

(委員長) 10年間の途中で改修された観光案内板や公衆トイレがまとまった地図などがあると評価する上で分かりやすい。

(委員) 市、観光協会などの取組みはかなり記載されているが、それ以外の取組みの記載が少なく、情報収集が偏っているように感じる。例えば、建長寺や円覚寺で実施されている外国人向けの坐禅や商工会議所青年部が実施しているオクトーバーフェストは大変盛況であるが、ここでは触れられていない。そういった他団体の取組みも記述していけると、より良いものとなる。

(事務局) 今年度の観光事情への記載は難しいが、この10年間に実施した事業のまとめは、別途検討していきたい。また、他団体の取組みについては、鎌倉市観光基本計画推進協議会の会員に照会をかけた上で、回答があった取組みについて記載をしているところである。

(委員) なかなか挙がってこない取組みも多いと思うので、積極的な情報収集に期待したい。

(委員) 最近ゲストハウスが増えていると聞くと、指標に出てこない動きも捉えていけると良い。

(委員) 事前に調べる上で、タウンニュースの記事から得た情報も多かったのも、例えば記者に参加してもらい、1年間の出来事を振り返ってもらうのも良いかもしれない。

(委員長) 国際観光都市であるが、海外で観光を学ぶ学生が、鎌倉に観光施策を学びにくるかということ、そうではない。それは、このような評価報告書が英語化されていなかったりすることにあるので、自治体の資料の国際化が成されれば、状況は変わっていくであろう。また、行政においても、観光分野に携わる職員の専門化が求められるので、国際観光都市としてどう考えていくかという部分については、評価報告書にも盛り込んでもらいたい。

(委員) ロードプライシングの検討には委員長も携わっているところであるが、鎌倉の交通渋滞はかなり大きな課題であるため、交通部門と観光部門とがよく連携をとって取組んでほしい。また、この辺は次期観光基本計画でも考えてほしい。

(委員長) この10年間で出来たこと、出来なかったことを整理し、また次回で議論したい。

3 その他

4 閉会

以上